

わーるど

特別号
2014. 12. 1



井上依理さん 加古川市消防本部勤務
藤本孝仁先生 稲美町立天満南小学校教諭

世界で活躍する わが町の人々

ナミビア共和国で小学校教諭 教え子がインタビュー

藤本 新任の時だったんで、本当に最初の時だったんですよね。
(思い出話に花が咲く*)
藤本 教えた子がこうやって大人になっていくのってね、なんか嬉しいですね。大したこと教えてないと思いますよ。1年目2年目なんて。勢いだけですもんね。
井上 楽しかったですよ。
藤本 それしかないでしょ。
井上・母 先生ね、人の役に立つ仕事をしたいっておっしゃってたでしょ。この子が同じことを高校生の時に言ってたんですよ。
井上 将来何も決めてなかったんですよ。目標も決めてなくて、とりあえず、なんか人の役に立ちたいってずっと思ってる。消防の体験行ったり、姉の話聞いてたら、消防かなあって。
藤本 なんか、嬉しいつながりですね。僕が先生になったのは、あこがれの先生がいたから。小学校の時に出会ったんです。
井上 私は小学校の時は、消防の人は憧れの人、かっこいい人たちだったんです。それで、今自分がその中にいるって変な感じですよ。
藤本 でも、消防士になってるもんさ。すごいと思うよ。
井上 だから、今ちっちゃい子から

国際交流協会では、海外で活躍された稲美町に縁のある方々を紹介していきます。初回は、アフリカのナミビア共和国の小学校で教育支援をされた、天満南小学校の藤本孝仁先生です。
きっかけはフィリピン交流
藤本 久しぶりの再会ですな。
井上 3年前ですか？
藤本 もう3年前になるかな。
井上 私が高校3年生の時、ホストファミリー^注をした留学生が天満南小学校で交流をした時です。消防士の試験を受けるんですって話をしましたね。
藤本 依理さんだったらきっと難しい試験に合格してステキな消防士さんになれると思っていましたよ。
同じ年にフィリピン交流^注が天満南小学校であってね。あのフィリピン交流が、自分の中で青年海外協力隊に行こうかなっていう事を考えたきっかけだったんですよ。フィリピンの方たちとの交流の時に聞いたのですが、『フィリピンでは教育を受けたくても受けることができない子がいるんです。』と言われていたのです。えーっと思っって詳しく聞いてみると、寺子屋のような、移動式の学校みたいな所で勉強している子どももいるって。それを聞いて自分

らそういうふうに使われてると思ったら、がんばらなきゃなと思います。
藤本 やりがいあるんでしょ？
井上 やりがいあります。ありがたうって言われたら嬉しい。今ちょうど仕事を始めて1ヶ月半くらいなんですけど、やっと慣れてきて、今結構楽しいなっていう感じなんです。
藤本 ああ、すごい。どんな仕事なの、内勤っていの、それとも外に出るの？
井上 私ずっと救急車に乗ってます。24時間の泊まり勤務です。
藤本 見返りは求めてないですけど、受け持った生徒が生きがいだったり、やりがいを持って人生を楽しんでるって言うのがほんとに嬉しい。それぞれ自分で努力して勝ち取ったものなんだけど、その中で、ぼくはみんなの人生の何年かだけでも、一緒に時間を共有できたっていうことだけでも、ああ、嬉しいなっと思うな。でも頑張りすぎないように体を大切にね。
藤本先生、井上さん、ありがとうございました。
2014年6月19日
天満南小学校にて取材

の中で何か「ハッ」とするものがありました。自分にも何かできることがあるのかなあって。それが、行こうって気持ち固めた時ですね。
井上 その前にも一度海外に行かなくてなかつたですか？
藤本 大学生の時に海外で仕事したいという気持ちがあったんですけど。大学卒業後、高校で臨時の体育教師をさせてもらっている時、もうどうしても海外に行きたくなつて。当時は陸上をずっとしたたので、JICAの要請で陸上競技のコーチを求めていて、それでJICAと知り合ってたんです。翌年教員採用試験とJICAの試験を受けて、両方とも受かって。その時は考え抜いて就職を選んで、JICAは断ったんですよ。苦渋の選択でした。それから5年くらい小学校教諭をしましたけど、海外で働きたいなあという想いはずっと持っていましたね。そしたら、たまたま日本人学校の募集があつて。違う形だけでも海外で働けるかなという思いでした。一生懸命勉強して日本人学校に行きましたね。国は選ぶことができなかつたのですが、文部科学省が適性を診断し、オランダになりました。3年間行って、帰ってきて、母里小と天満南小に勤務させてもらいました。
日本人学校を経験したからこそ思

過酷なナミビア生活
井上 ナミビアはどんなところと想像して行かれたんですか？
藤本 正直、なめていましたね。地図では、南アフリカの上部にあつて、

うことがありました。そこでは教育に熱心な方が多く、本当に授業に没頭できる3年間を過ごさせてもらった感じなんです。でも、心のどこかで自分の中で物足りなさがあったような気がします。話を戻せば、フィリピン交流の時に、そうか自分も行きたいし、求められているんだつたら行こうじゃないかと思っ行ってました。
馴染みのないナミビアへ
井上 ナミビアも自分では選べなかつたんですか？
藤本 ナミビアは選びました。小学校教諭で募集があつた国は、いっぱいありましたよ。でも自分が得意な教科が体育と算数なので、ソロモン諸島・モンゴル・ナミビアの3カ国から選びましたね。
井上 ナミビアを選んだ決め手は？
藤本 馴染みが薄くて、日本人があまり行ってないところ。
せっかくなんで行ったら、人の歩いた道じゃなくて、自分で切り開く道！それが決め手です。

【ナミビアの子どもたち】



リカへの誤解や、偏見とか、黒人差別であるとか、そういうのをなくしたいなあ。自分が無事帰ってきたことが一番。別に日本人だって生きていけるよ。物が豊かなことだけが幸せじゃないんだよ、別に物がなくたって、幸せ探せるねんでーっというのをうまく伝えていくのが自分の次の仕事やろうな。
井上 日本で、日本の子どもに？
藤本 そうですね。
井上 海外には行かれないんですか？
藤本 それはわかりません。依理さんは行けるチャンスがあれば行きたくないですか？
井上 行きたいです。
藤本 自分は若いうちに行かせてもらったので、いろいろ見方も変わって。変えようと思っても変わらないけど、視野が広がったのは大きいかな。その分若い人たちも経験してほしいと思います。
運命を変えた藤本先生との出会い
藤本 僕が依理さんの担任をしたのは、24歳の時ですね。
井上 若い先生来たーって、みんなで大喜びして。
藤本 依理さんとは2年間だったかな。
井上 はい。2年です。

藤本 新任の時だったんで、本当に最初の時だったんですよね。
(思い出話に花が咲く*)
藤本 教えた子がこうやって大人になっていくのってね、なんか嬉しいですね。大したこと教えてないと思いますよ。1年目2年目なんて。勢いだけですもんね。
井上 楽しかったですよ。
藤本 それしかないでしょ。
井上・母 先生ね、人の役に立つ仕事をしたいっておっしゃってたでしょ。この子が同じことを高校生の時に言ってたんですよ。
井上 将来何も決めてなかったんですよ。目標も決めてなくて、とりあえず、なんか人の役に立ちたいってずっと思ってる。消防の体験行ったり、姉の話聞いてたら、消防かなあって。
藤本 なんか、嬉しいつながりですね。僕が先生になったのは、あこがれの先生がいたから。小学校の時に出会ったんです。
井上 私は小学校の時は、消防の人は憧れの人、かっこいい人たちだったんです。それで、今自分がその中にいるって変な感じですよ。
藤本 でも、消防士になってるもんさ。すごいと思うよ。
井上 だから、今ちっちゃい子から

らそういうふうに使われてると思ったら、がんばらなきゃなと思います。
藤本 やりがいあるんでしょ？
井上 やりがいあります。ありがたうって言われたら嬉しい。今ちょうど仕事を始めて1ヶ月半くらいなんですけど、やっと慣れてきて、今結構楽しいなっていう感じなんです。
藤本 ああ、すごい。どんな仕事なの、内勤っていの、それとも外に出るの？
井上 私ずっと救急車に乗ってます。24時間の泊まり勤務です。
藤本 見返りは求めてないですけど、受け持った生徒が生きがいだったり、やりがいを持って人生を楽しんでるって言うのがほんとに嬉しい。それぞれ自分で努力して勝ち取ったものなんだけど、その中で、ぼくはみんなの人生の何年かだけでも、一緒に時間を共有できたっていうことだけでも、ああ、嬉しいなっと思うな。でも頑張りすぎないように体を大切にね。
藤本先生、井上さん、ありがとうございました。
2014年6月19日
天満南小学校にて取材

- 【注】
- 1) 留学生・ホストファミリー：稲美町国際交流協会主催事業。毎年夏に大阪大学留学生を8日間稲美町の家庭（ホストファミリー）に受け入れ、小・中・高生や老人・料理クラブなど稲美町民と交流をする。今年で26回目。
 - 2) フィリピン交流：フィリピン人と町内の小学生が交流する事業。2011年、2012年開催。
 - 3) 中進国・発展途上国の中でも特に一人あたりの所得が低い国(後発発展途上国)よりも所得の多い国(中所得国)のこと。

南アフリカが実質支配していたんですが、一九九〇年に独立したんです。私が住んでいたルアカナっていうところが、ここなんです。ナミビアの



【ナミビア共和国】

- ・日本から約30時間
- ・国土は日本の2倍
- ・人口は日本の1/6
- ・公用語は英語。



・国旗
緑は国土、赤は独立闘争で流された血、青は希望と恵み、太陽の周りのギザギザは12の種族の協調と統一

産業は一番はウランですね。だから原発のことで、ちょっと打撃はありますね。それとダイヤモンドです。

いですね。女の子なんかは、16歳くらいで子どもでもきちゃって、産休を取って復学してくるんです。一応学校に子どもは連れてきてはダメなので、おじいちゃんおばあちゃんに預けるんですよ。でも、卒業式とか、終業式には子どもを抱っこして連れてくるんですよ。誰の子だろうなと思つてたら、自分の子だと言つたら、自分の子だったら連れて来ないといけないなあと思ってましたね。

自由恋愛ですけど、女の子を玉の輿に乗せようとする親はとも多いですね。自分たちが上のステップに上がるためにはそれしかないんですよ。だから女性蔑視というか、見下す男の人がとても多いんです。公務員がナミビアという勝ち組の一番です。民間企業がほとんど育っていないので、多くの事を公務員が受けてるんです。役場職員や先生になれば勝ち組なんです。



教育観の違い

現地の先生と体罰のことで何度か

いわゆる途上国なんですけど、中進国注。って言われていて、マラウイという国が世界で一番貧しい国と言われているんですけど、マラウイに比べると相当経済は豊かです。

アフリカは遠くて知らないだけで、もし近かつたら絶対観光に行つてると思いますよ。すごく綺麗ですよ、すべてが。

井上 食事はどんなものですか？

藤本 食べ物も、首都はファストフード店のようなものもあり、充実していると思います。肉って日本だと、主に牛と豚と鳥くらいで、鳥の中に鴨があるくらいですよ。ナミビアは牛も豚ももちろんあるんですが、オリックスやワニ、象やロバの肉を食べたり、サファリにいるようなシマウマなどの肉食系動物の肉(ゲーム肉という。)を食べます。日

によつて捕まえたものが違いますけどね。結構おいしいですよ。魚もありません。

井上 へえー。

藤本 でもね、私が住んでいるルアカナという町は、首都から800km離れたいたのでこんな肉食系は食べられないんですよ。だいぶん離れたところまで行かないと食べられないんですよ。パップという稗を碾いて粉にしたものをお湯でといただけのおかゆを食べていたんです。アフリカ全般

の主食ですね。水が少なくても育つ植物なので。

井上 家はどんな感じですか？

藤本 僕の家は、木とトタンですね。トタン屋根はきつかったな。でも電気も通っているし、ガスコンロもあって、近くに行けば水の出るところもあるんです。電灯が原因不明で1週間つかなくなったこともありましたが、電球を替えてつて言ったんですけど、**オン** 明日替える、明日替えるつて言つて、1週間かかりましたね。そんなことはざらでした。ところでもしかしたら45℃とか経験したことある？

井上 一瞬ならあるけど。

藤本 一瞬ではなくて日中暑うつと。毎日の食事は自炊で、45℃の中でガスコンロで料理を作ると、作ったあと食べる気なくします。きつかったですよ。たまにはビールを飲むんですが、ナミビアのビールはアフリカの中で結構有名なんです。南部に行けば麦のブランチーションがあるんです。外資がしっかり入つてやっているんです。

井上 トイレとお風呂は？

藤本 家の前に、トイレ・シャワー付きの別棟があります。調理用の水なんかはここに汲みに行くんですよ。

ルアカナはね、ダムを建設するた

です。ナミビアの子どもも日本の子どもも一緒でしたよ。

暮らせそう？

井上 旅行でならいいかな。先生の話聞いてたらそう思いました。

藤本 旅行はいいと思う、僕も思う。

井上 行ってみたいなって、すごく

藤本 観光ガイドできるよ。

井上 でも休みが…

藤本 消防士さんも大変な仕事なんね。日本は休みが取りづらいかな。先生をしても休みはなかなか取れないけど、ナミビア人はおかまいなしで取りますね。良いか悪いか別にしてね。彼らはきちっと休みを取ります。明日から夏休みですよ、と言つたら、ほんとに学校も全部閉めて、タカ(藤本先生)も学校来るなよと。だから夏休みとかは学校に入れません。

外国の誤解や差別の撤廃

井上 ナミビアに行つて得たこととか、発見したこと、次の目標は自分の中にあるんですか？

藤本 ありますよ。自分の次のステップは、こうやってオランダも行ってらつて、ナミビアも行ってらつて、その経験したことを子供たちに伝えて、ちょっとでもアフ

めに作られた村なんです。20キロ先のダムを作るために電力会社(ナンパワー)が拠点として作った村で、白人の人たちが作った村なんです。ダム完成と同時に白人さんたちは撤退して行って、その代わりに電力会社の上層の人たちの別荘とか、ダムのメンテナンスとかもあるのに住む家があるんですね。だからインフラ関係は整っているんですよ。一部のルアカナの生徒の保護者はナンパワーの関連施設で働いているんです。



井上 気温は？

藤本 冬でも最低気温5℃、最高気温30℃。全部用意しておかないといけないんですよ。朝フリース着て上にはジャケット着て、昼くらいになったら全部脱いで半袖短パンになつて、帰つてきてそろそろ晩御飯だと思つたらまた長袖着て。シャワー浴びたら寒ーって。シャワーはもちろん水です。お湯なんて出ませんよ。水もよく止まるんですよ。貯めてる非常用の水のポンプからちよろちよ

ると出るところに皆が並ぶんですけどね。僕が桶を持っていくと、みんな譲ってくれるんですよ。優しいというか。わざわざ遠いところから来るとか、先生とかいうのもあって、どうぞつて譲ってくれる。

井上 水は大丈夫なんですか？

藤本 今みたら無理だつて思うけど、向こうにいたら真っ白な水を沸かして、湯冷ましたのを冷蔵庫に入れて飲んでましたね。

まだまだ残る女性差別

井上 学校は？

藤本 ナミビアの学校は公立なので無料です。でも、トタンの屋根で電気もなく黒板だけです。教科書も、何十年前の古いものを学校で保管して授業しているんです。学校の体制は、小学校は1年生〜7年生で、8年生〜12年生が中学校でセカンドリースクールになるんですね。落第があるので、6年生の担任をさせてもらつても、クラスに12歳はいないですよ。13歳が最年少で、1回はどこかで落第していますね。落第の原因は、勉強を全然しないから。家の手伝いするからつていうのもありますね。6年生でも23歳の子がいますからね。その子達は完全に家の稼ぎ頭ですからね、あまり学校に来れな

【ナミビアの観光地】 藤本先生が紹介するナミビアの観光スポット。美しい自然が広がっている。



フィッシュリバーキャニオン：グランドキャニオンの次に大きな渓谷。



ナミブ砂漠：富士山と一緒に世界遺産になった、世界で最も古い砂漠と言われている。



ナミビア南部：ナミビアの代表的な景観の一つ。



エトーシャ国立公園：乾燥地帯に生息する動物が観察できる。